文書館ニュース

もんじょかん

山口県文書館
Yamaguchi Prefectural Archives

No.47

CONTENTS

■毛利家文庫遠用物……1・2
■山口県災害記 ―過去の記録に学ぶ―……3・4
■学校教育との連携……5
■第3回歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議…5
■平成24年度の新収諸家文書を紹介します！……6
■絵図と古文書で歩く萩往還……裏表紙

第47号　文書館ニュース　2013年（平成25年）

毛利家文庫遠用物（えんようもの）

全一万二千点の公開を開始しました。

毛利家文庫は、昭和五十三年（一九七八）までに五分冊の解説つき目録を作成して、約三万二千点を公開しています。当館の開設以来、看板史料としてよく知られ、閲覧利用頻度の高さはいまだに不変です。しかし、これが毛利家文庫のすべてではありませんでした。

袋入文書と呼ばれた一群が未整理で残っていたのです。これらは旧萩藩主、公爵毛利家に昭和六年（一九三一）から同八年頃に設けられていた両公伝編纂所（大正十一年（一九二二）開所）で、大きく遠用物と近代物とに分けられ、遠用物はおおむね文政期以前、近代物は天保期以降という時代区分で整理されました。

両公伝編纂所が作成した「遠用物史料目録」に依拠しながら、中世・近世前期・近世後期・近代に分けて整理を進め、平成九・十年（一九九七・八）に、中世三九四点、近世前期（正徳期まで）二、七一九点、近代一二六点、計三、二三九点を公開しました。しかし、これは一部であり、残る近世後期の公開が待たれていました。そして、このたび近世後期八、九三五点を公開することになり、これで、遠用物一二、一七四点すべての公開が実現することになりました。

遠用物は、広範多岐にわたる、ぼう大な萩藩政に関する史料群のため、その全容を紹介するには紙幅が足りませんが、ここでは近世後期の一部をピックアップしてみましょう。

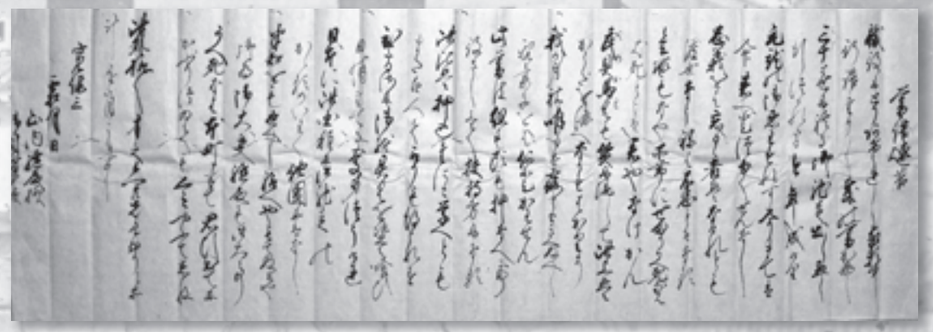
まず、三四二点と数の上で群を抜くのは、文化十年（一八一三）の関東筋川々御普請記録関係です。また、目安箱に投函された投文、すなわち意見書や訴状があり、当時の人々のなまなましい声を聞くことができます。

家格を巡る問題をはじめとして、意外に多いのが、岩国吉川家など四末家に関する史料です。

論地や開作に関するものも目立ちます。前者では小瀬川河口における安芸国との境目争論のほか、宇田（現、阿武町）と惣郷（現、阿武町）の海上境目を巡るいさかいなど、後者では赤間関伊崎新地（現、下関市）がその代表例としてあげられます。そして、これらに関しては、必ずといっていいほど関係絵図が備わっていることが注目されます。このほか、絵図方関係の文書も多数含まれています。

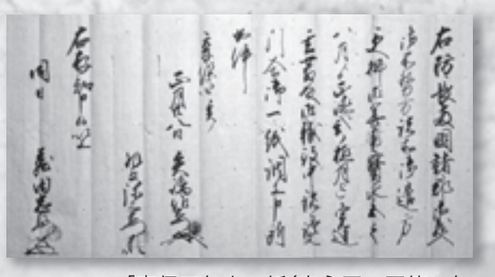
享保四年（一七一九）の「大一紙」と銘打たれた宝永五年（一七〇八）～正徳二年（一七一二）、当職宍道玄蕃の在任中の決算報告書や石州借といわれる借用証文なども散見され、山代紙・塩浜など萩藩の基幹産業のことはもちろん、銅山関連の史料も少なからず見受けられます。

百聞は一見にしかずです。この1万二千点もの深淵な史料の海に漕ぎ出してみませんか！きっと新しい発見が待っているに違いありません。



目安箱に入れられた投文「寛保三年暮詰連苦」（毛利家文庫遠用物・近世後期606（5の1））

「三田尻才判迫戸川筋之図」
（毛利家文庫遠用物・近世後期1759）



「享保四年大一紙（宝永五～正徳二年御蔵入所務方遣方受払算用）」
（毛利家文庫遠用物・近世後期3015）

背景写真は「萩城五層楼写真」（吉田樟堂文庫2706）

＊遠用物近世後期は、閲覧室備え付けの目録をご覧ください。

山口県災害記

Records on Past　Disasters in Yamaguchi

過去の記録に学ぶ

平成23年3月11日、東日本をかつて見たことのない地震や津波が襲いました。テレビや新聞などから刻々と流される情報に、心を痛めた方々も多くいたことと思います。しかし、当初「想定外」といわれた災害も、時が経つにつれて、同規模の災害が古い記録の中に記されていたことがわかってきました。「想定外」といわれた災害は、かつて郷土の先人達も経験していたものだったのです。

「山口県にもかつて甚大な被害をもたらした災害があったが、今、忘れ去られているのではないか。」

このような危機感のもと、当館では、今年6月1日（土）～ 9日（日）に「山口県災害記」というテーマで第8回アーカイブズウィークを開催します。

今回はこれに関連し、山口県下に甚大な被害をもたらした近世～1950年代の自然災害について紹介します。

※なお、1872年12月以前の日付はすべて旧暦です。

地震

山口県は地震が少ない県とされていますが、
実際には少なくない数の地震が起こっています。

延宝地震（1676.6.2）

山口県で知られる最古の地震は、延宝4年（1676）6月2日に起こった地震です。この地震に関する記録には、美祢郡堅田村（現、美祢市秋芳町別府）において土地が馬小屋ごと陥没し、また庄屋の内庭も陥没して井戸程度の穴が開いたと記されています。

貞享地震（1685.12.10）

また、貞享2年（1685）12月10日に起きた地震では、萩城が被害を受け、萩城下町でも棚にあった器が悉く落ち、塀が倒れ、また家屋にも柱が折れるなどの被害が出ています。また、同じく萩城下町の唐樋地区では「道の中をゆりわり、泥出」と、液状化現象も起こっています。また、大島郡外入村（現、周防大島町外入）では、地震によって引き起こされた山崩れにより、多数の怪我人が出ています。

宝永地震（1707.10.4,28）

宝永地震は、宝永4年（1707）10月4日に発生した、東海・東南海・南海連動型地震です。記録には東海道と畿内で甚大な被害があり、特に大坂では津波で18,000名余の死者、倒壊家屋も数万軒あったと記されています（ただし、実際の被害者数などは諸説あります）。

山口県域でも24日後に地震が発生し、特に徳地では289軒が倒壊、死者3名、負傷者15名、死牛馬4匹という被害が出ています。

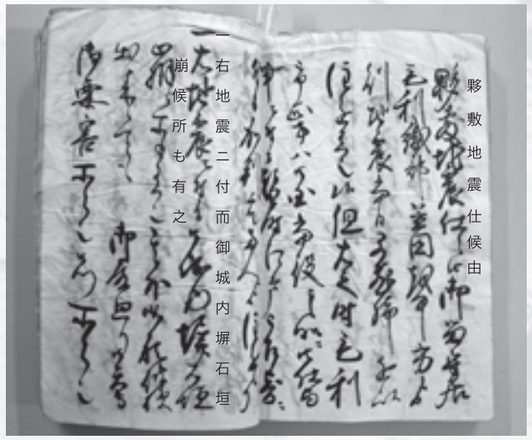
安政地震（1854.11.4～5）

安政地震は、嘉永7年（1854）11月4～5日に発生した、宝永地震と同じ海溝型巨大地震です。

県内では11月4日に小さな地震が起こり、5日に大きな地震に襲われ、その後も余震が続いています。

平生村横浜（現、平生町）では「所々水吹出し」、中野開作（現、宇部市中野開作）でも「土地引割、泥水を吹出」と、瀬戸内海沿岸で液状化現象が起こっています。また、上関代官からは、5日夜に干潮時にもかかわらず「六尺位も満上り」と、180㎝ほどの津波とみられる現象が報告されています。

このほかにも、萩市江崎の魚市場に関する史料の中に、日本海側で津波が起こったという伝承が記され、また、安政4～6年にも県内で立て続けに地震が発生しています。



貞享地震の被害状況を記した「諸事小々之控」

台風・高潮

台風は県内に甚大な被害を与えてきました。さらに周防灘沿岸は、台風通過時の高潮による大規模な被害を受けています。

承応の台風（1653.8.5）

承応２年（1653）８月５日、防長両国を激しい台風が襲いました。この台風は高潮も引き起こし、死者106名、倒家11,220軒、死牛200匹など莫大な被害をもたらしました。

昭和17年周防灘台風（1942.8.27）

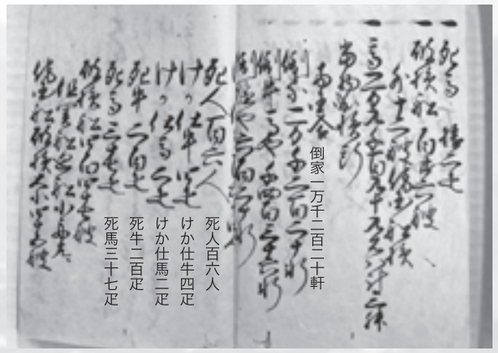
昭和17年（1942）8月末、戦時下の日本を襲った周防灘台風は、山口県の瀬戸内海沿岸部に甚大な高潮被害をもたらしました。小野田市（現、山陽小野田市）では、高潮により約300トンもの船が防波堤に乗り上げたと記され、県下の死者・行方不明者は794名にもおよびました。

しかし、この災害は戦争中の報道規制により、詳しく報道されることはなかったようです。

昭和26年ルース台風（1951.10.14～15）

昭和26年（1951）10月、佐波川水害（後述）から間もない県下をルース台風が襲いました。この台風による県東部の雨量は13～14日に480㎜に達し、錦川流域では山崩れが多発し、多くの死傷者が出ました。この台風による県下の死者・行方不明者は405名にのぼりました。

このほかにも、県下の死者・行方不明者が701名にのぼった昭和20年9月の枕崎台風や、錦帯橋が流失した昭和25年9月のキジヤ台風など、台風・高潮は県下に甚大な被害を与えてきました。



承応の台風の被害状況を記した「小箱旧記抄」

昭和26年ルース台風により流失した岩国市の門前橋

豪雨・土砂災害

山口県は現在、全国3位の土砂災害危険箇所を有しています。
過去にも豪雨が引き金となった土砂崩れや、洪水が発生しています。

戸田（へた）の大つえ（1831.6.5）

天保2年（1831）6月5日、大島郡戸田村（現、周防大島町戸田）において、豪雨による山崩れが発生しました。「当職所日記」には、倒家24軒、溺死65名に対し、6日から10日まで5,800名もの人夫で救助活動を行ったと記されています。

郷坪大水害（1886.9.24）

明治19年（1886）9月20日頃から降り続いた雨は、大島郡・玖珂郡を中心に土砂災害を引き起こしました。なかでも大島郡屋代村（現、周防大島町屋代）では、24日に土石流が発生し、110名が死亡するとともに、田畑も土砂に埋もれました。この災害により田畑を失った多くの被災者が、ハワイやアメリカへ移住したとも伝えられています。

昭和26年佐波川水害（1951.7.8～10）

昭和26年（1951）7月8日から降り始めた雨は、9日から10日にかけて勢いを増し、佐波川の氾濫を引き起こし、沿岸諸村に甚大な被害をもたらしました。この時の雨量は、9日から10日にかかる24時間で341㎜を数えました。死者は2名、全壊家屋243戸におよびました。

昭和29年台風12号により浸水した岩国市の市街地

昭和26年佐波川水害による徳地堀の被災状況

学校教育との連携

―全史料協全国大会研修会で当館の取り組みを紹介―

平成二十四年十一月八日～九日、「第三十八回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会」が広島で開催されました。この研修会で、当館の山本明史専門研究員が学校教育との連携に関する取り組みを紹介しました。

当館では、現在、学校教育支援として、「授業で使える文書館活用講座」の開催、児童・生徒・大学生等の訪問受け入れ、教材研究に関するレファレンス、「山口県文書館所蔵アーカイブズガイド―学校教育編―」の作成などを行っています。研修会では、これらの内容について、それぞれ説明しました。

特に、「山口県文書館所蔵アーカイブズガイド―学校教育編―」の作成に関しては、当館ウェブサイトに掲載されたトピックの実際を見ながら、取り組みに至った経緯、編集の基本方針、今後の課題などについて解説し、好評を得ました。

第三回 歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議

当館では、歴史的公文書や地域に残された文書記録の保存と活用を目指し、県と市町の情報交換と協力の場として、「歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議」を開催しています。今年度は、十一月一日に開催し、県・市町の職員等四二名の参加がありました。

今年度の会議は二部構成とし、第一部は「市町の公文書保存に関する最新事例の紹介」、第二部は「地域の文書記録類保存に関する情報交換」をテーマとしました。公文書と地域の文書記録、それぞれの問題を掘り下げて検討するためです。

第一部では、香川県から三豊市文書館専門員の宮田克成氏をお招きし、「公文書保存から文書館へ～三豊市文書館を事例に～」と題して、三豊市における公文書保存のあり方と文書館設立にいたるプロセスについてお話しいただきました。

第二部では、「山口県文書館における取り組み―地方調査員制度を中心に―」と題して、当館による県内所在史料調査などの取り組みについて報告し、市町との意見交換を行いました。

今後も、市町と協力しながら、いっそう充実した会議を目指していきます。

平成二十四年度の新収諸家文書を紹介します！

今年度、一四家、二、六八七点の諸家文書の閲覧提供を開始しました。その中から三つの文書群を紹介します。

■池田邦夫所蔵文書

池田家は、山陽小野田市に所在し、近年まで天草下島（現、熊本県天草市）にあった家です。同家に伝わる大友宗麟（そうりん）の書状には、光沢があって美しく、温度・湿度の変化に強い当時の最高級紙（斐紙（ひし））が用いられています。内容は、家臣の柴田礼能（れいのう）が一門に準ぜられたことを賀したものです。礼能は、槍の名手で「豊後のヘラクレス」と称され、宗麟の側近として重用された人物です。宗麟と同じくキリシタンでした。

■尾﨑家文書

尾﨑家は、江戸時代に萩藩三田尻宰判真尾（まなお）村（現、防府市）右田毛利家領の小都合庄屋・庄屋・畔頭（がとう）などを務め、明治期には真尾地域の戸長・小野村会議員などを歴任した家です。尾﨑三雄は、農商務省に入省し、昭和十年代前半に農林技師としてアフガニスタンに赴任、戦後は、山口県農業試験場長と山口県経済部農業改良課長を兼務しました。文書群は、右のような尾﨑家の公私にわたる活動の過程で作成・授受されたもので構成されています。特に、尾﨑三雄がアフガニスタン農商務省に勤務した際に撮影した写真は、当時豊かな農業国であったアフガニスタンの姿を伝える貴重なものです。

また、尾﨑家文書には、明治初年に婚姻関係を結んだ長松家の文書がまとまって含まれています。長松家は、中世の安芸国有力国衆・天野氏の一族で、同国賀茂郡長松村（現、広島県東広島市）を名字の地とし、江戸時代は、天野氏の流れを汲む萩藩一門・右田毛利家の家老であった家です。長松操が明治期に山口県会議員・佐波郡会議員・小野村長などを歴任しました。

■古畑家文書

郷土史家で、特に中世～近世の武家に精通する古畑氏から寄託された文書群です。この中に含まれる「五国証文」は、芸州時代毛利家関係の古文書類を郡別所蔵者別に収録した「五国証文」（毛利家文庫22諸臣86）の一部です。これにより、本来一六冊あった「五国証文」の内、明治期に存在が確認されていた一〇冊がすべて揃いました。また「五国」は、従来、石見・出雲・隠岐・伯耆・備後と考えられていましたが、一国は隠岐ではなく安芸であることが明らかとなりました。

尾﨑家文書 №546　小麦の脱粒

■平成24年度の新収諸家文書

№.	文書名	点数	主な文書の年代	文書群の特徴（関連地域、個人・家の歴史、就任役職）
1	阿武孝太郎文書	274	近世～現代	美祢市／満蒙開拓団／小中学校教員／写真
2	池田邦夫所蔵文書	1	中世	豊後大友氏家臣
3	一宝家文書	15	中世～近世	山口市秋穂二島／萩藩御用石工
4	惠本家文書	13	近世～近代	岩国市錦町／庄屋／畔頭
5	尾﨑家文書	1,004	中世～現代	防府市／給庄屋／給畔頭／アフガニスタン写真／右田毛利家臣
6	内藤家文書	377	中世～近代	毛利氏家臣／萩藩士（寄組）
7	能美家文書	107	中世～現代	安芸国能美荘／大内氏家臣／毛利氏家臣／萩藩士（大組）
8	古畑家文書	7	近世～近代	コレクション／毛利家文庫「五国証文」／須佐益田家
9	馬来家文書	27	近世	萩藩士（大組）
10	松岡家文書	72	近代	山口市／宮大工／差図
11	松田家文書	526	近代～現代	山口市阿東／篠生村会議員
12	松元淳収集史料（追加）	5	近世～近代	コレクション／和書
13	山本繁収集史料	11	近世～近代	コレクション／武永家
14	吉山家文書	248	近世～近代	山口市小郡／畔頭／町会議員

文書館ニュース No.47

編集／山口県文書館　発行／平成25年(2013年)3月29日　印刷／暸報社写真印刷株式会社

萩往還

絵図と古文書で歩く

平成24年6月1日(金)から10日(日)まで、第7回中国四国地区アーカイブズウィークを開催しました。

今回は、「おいでませ！山口イヤー観光交流キャンペーン」と連携し、歴史の道「萩往還」に焦点をあててみました。歴史探究講座は「絵図と古文書で歩く萩往還」をテーマに、街道絵図「行程記」に沿って、萩から三田尻までの萩往還を、現地の写真や 映像を交えながら、文書館専門研究員がナビゲートしました。入場を待つ人々の長蛇の列ができ、会場内は溢れるほどの超満員で、萩往還ファンの熱気に包まれました。

恒例の「アーカイブズ展示」、「ギャラリートーク」、「文書館書庫見学ツアー」、「文書館を使ってみよう！」、「アーカイブズ歴史小話」はいずれも盛況で、9日間の期間中、延べ1,357名の参加者がありました。

また、7月24日(火)から8月26日(日)まで、山口県立美術館で「防長の絵図―美しき古地図の世界―」展が開催され、文書館所蔵の「正保国絵図」をはじめとした大型絵図が多数出品されました。

双方の企画をとおして、萩藩絵図方の優れた作品を、多くの方々にご覧いただく格好の機会となりました。

アーカイブズウィーク「ギャラリートーク」

「防長の絵図展」会場

山口県文書館

〒753-0083　山口県山口市後河原150-1
TEL083-924-2116　FAX083-924-2117　http://ymonjo.ysn21.jp/

利用時間

【開館時間】　火曜日～日曜日　9:00～17:00

【閉　館　日】　月曜日、祝日、月末整理日、年末年始、資料点検期間、月曜日が祝日の場合は翌火曜日

※文書館は山口県立山口図書館と同じ建物内にあります。
　閲覧室へは2階へお上がりください。
※毎月の開・閉館日は、当館Webサイトの閲覧室カレンダーをご覧ください。

［表紙写真］壱万哩記念 鉄道競争すごろく（大阪毎日新聞第14943号附録）津田家文書653